

【法人の概要】

代表者名	理事長 坂内啓二		所管部(局)課	農政部畜産課	
所在地	山梨県北杜市小淵沢町大平10061		電話番号	0551-36-3200	
ホームページURL	http://www.yatuboku.jp		E-mailアドレス	yatuboku@io.ocn.ne.jp	
資本金(基本財産)	10,000	千円	設立年月日	昭和52年3月23日	
主な出資者等	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		10,000 千円	100.0 %
	2			千円	0.0 %
	3			千円	0.0 %
	4			千円	0.0 %
	5			千円	0.0 %
	6			千円	0.0 %
	7			千円	0.0 %
	8			千円	0.0 %
	9			千円	0.0 %
	10			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
	その他			千円	0.0 %
				10,000 千円	
設立目的	山梨県の子牛の生産、育成を振興し、もって畜産の安定発展に寄与すること。				
経緯概況等	県営八ヶ岳牧場は、条例に基づき県の肉用牛生産基地として、肉用牛繁殖育成事業を行ってきた。 昭和52年:(財)山梨県子牛育成協会が設立され、協会は県から牧場管理業務の一部を委託された。 昭和60年:県営八ヶ岳牧場から、県立八ヶ岳牧場と改称し、協会は県から牧場の管理業務を全面委任された。 平成5年:県立まきば公園と天女山分場整備に伴い、協会は県からまきば公園の管理業務を委託された。 平成12年:堆肥処理施設の稼働により、堆肥の販売を開始。 平成13年:周年預託業務を開始。 平成18年:県立八ヶ岳牧場、県立まきば公園の指定管理者となっている。 平成23年:公益財団法人に認定された。				

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業1 八ヶ岳牧場管理受託業務	県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却 農家有家畜(牛・馬)の周年受託業務 草地等の維持管理業務。農家の巡回調査指導業務 肉用牛の改良増殖業務。家畜排泄物処理業務等	216,762	194,615	200,211
事業2 まきば公園管理受託業務	めん羊(サフォーク種)の増殖業務及びふれあい動物の飼養管理 公園施設、草地、植栽の維持管理 来園者の対応、各種イベントの開催	19,445	17,395	17,530
事業3				

【組織】

各年度 4月1日現在	令和元年度					令和2年度					令和3年度								
	職 員	プロ パー	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	其 他	職 員	プロ パー	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	其 他	職 員	プロ パー	県 職 員 派 遣	県 職 員 兼 務	県 O B	其 他	
役員等																			
理事(常勤)	1				1		1				1		1				1		
理事(非常勤)	8			2		6	8			2		6	8			2		6	
監事(常勤)	0						0					0							
監事(非常勤)	2					2	2				2		2					2	
評議員	5					5	5				5		5					5	
計	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1	13	16	0	0	2	1	13	
職員																			
管理職	1	1					1	1					1	1					
一般職員	19	19					20	20					20	20					
臨時職員	3					3	2					2						2	
非常勤職員	0						0					0							
計	23	20	0	0	0	3	23	21	0	0	0	2	23	21	0	0	0	2	
令和3年度 プロパー職員の 年齢構成 (令和4年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計											
	男性		2	4	5	4	3	18	役常 員勤	※								(千円)	
	女性		2			1		3										※	
	合計	0	4	4	5	5	3	21	職常 員勤	45								(千円)	

※個人の年齢、年収が容易に推定できるため不記載

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益	47	47	47	0
	受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	223,869	212,010	217,742	5,732
	自主事業収益	46,996	45,086	42,593	△ 2,493
	受取補助金等	0	0	0	0
	その他の収益	1,060	2,671	2,724	53
	経常収入 計	271,971	259,814	263,105	3,291
	事業費	246,149	243,662	241,694	△ 1,968
	うち人件費	146,664	140,174	135,872	△ 4,302
	管理費	11,893	11,360	11,181	△ 179
	うち人件費	10,595	9,917	9,656	△ 261
	経常支出 計	258,042	255,022	252,875	△ 2,147
	当期経常増減額	13,929	4,792	10,230	5,438
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	13,929	4,792	10,230	5,438	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
正味財産期末残高	106,547	111,339	121,568	10,229	

(単位:千円)

項 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	増減
財務状況	流動資産	70,435	55,425	54,473	△ 953
	固定資産	119,055	116,598	131,711	15,113
	資産 計	189,489	172,023	186,183	14,160
	流動負債	52,731	30,365	36,815	6,450
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	30,213	30,321	27,801	△ 2,520
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	82,943	60,686	64,616	3,930
	正味財産	106,546	111,337	121,568	10,230
	うち基本財産への充当額	10,000	10,000	10,000	0
うち特定資産への充当額	40,634	57,304	72,329	15,025	

(単位:千円)

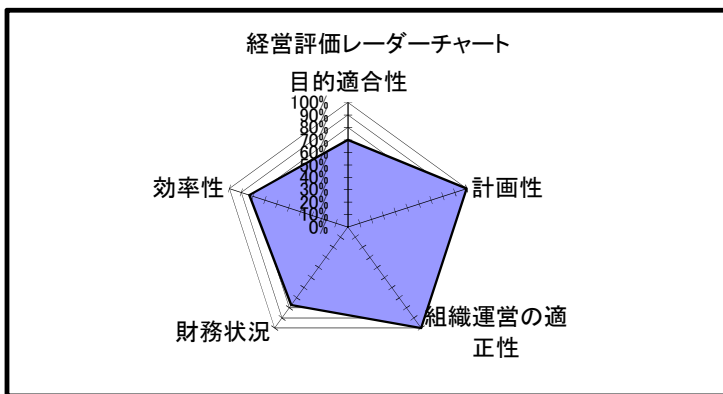
項 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	0	0	0	0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費委託金	146,664	140,174	135,872	△ 4,302
	人件費以外の委託金	77,204	71,836	81,870	10,033
	委託金 計	223,869	212,010	217,742	5,731
	県支出金 計	223,869	212,010	217,742	5,731
	県の財政的関与の割合(%)	82.3	81.6	82.8	1.2
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の状況(令和2年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	該当なし
補助金(運営費)	該当なし
補助金(事業費)	該当なし
委託金	県立ハヶ岳牧場管理委託費…農家家畜を受託放牧するとともに、県有牛を改良増殖・供給し、本県の畜産振興に資する。(R2委託料:196,713千円) 県立まきば公園管理委託費…自然の中で動物とのふれあいの場を提供し、県民の畜産への理解を深め、県民の保養休養に資する。(R2委託料:17,530千円) 死亡牛焼却処理業務委託費…西部家畜保健衛生所より県が行う牛海綿状脳症(BSE)検査後の死亡牛の受入及び焼却処理業務を受託(R2委託料:3,499千円)
県債務負担実際残高	該当なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	7	70.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	34	77.3%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	15	83.3%
合 計		21	92	76	82.6%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	県立八ヶ岳牧場では、農家家畜の受託管理並びに県肉用繁殖牛の改良及び子牛の売却を行い、本県畜産農家の経営安定に寄与するとともに、県立まきば公園では自然や動物とのふれあいを通じて、一般県民等に憩いの場を提供するなど、指定管理者として基本協定に基づき業務を適正に行っていく。当該年度も県有牛から預託牛へのヨーネ病(家畜伝染病)の感染を防止するため、冬期預託頭数を制限したことや、ヨーネ病が発生した農家の牧場利用が禁止されたことにより、延べ受託頭数は、目標をやや下回った。また、まきば公園は、新型コロナウイルス感染拡大により来園者は目標を大幅に下回った。
計画性	毎年度、事業計画を設定し、より効率的な管理運営と経営の安定を図っている。また、計画と実績の比較分析を行い、業務・経営の改善に努めている。
組織運営の適正性	適正な運営を行うため、組織や職員数等の見直しを行っている。また、職員間のミーティングによる意思の疎通やモチベーションの向上を図るなど、内部管理を適切に行い、透明性の高い健全な運営に努めている。事業活動内容、財務状況についてはホームページで公開している。
財務状況	職員の定年退職に伴う退職手当の未払計上により流動負債が増えたことにより、流動比率が低下したことから財務指標の評価が下がったが、当期末の流動比率は、147.9%で経営の安全は保っており、一般正味財産増減額は8期連続プラスである。次年度以降も、収支相償を基本とした健全経営に努めていく。
効率性	従前より管理運営の効率化を図ってきたところである。管理施設は家畜を飼養している施設であり、年間を通じて終日利用しており効率的に活用されている。計画的な人員管理により人件費総額を抑制するなど、効率的運営を進めている。一方、職員一人当たり施設等利用人数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅に低下した。
総合的評価	優良素牛の売却等により甲州牛の生産基盤強化に寄与するとともに、受託家畜の受入増頭・繁殖管理の充実等により利用者ニーズに応えており、利用者のアンケート調査でも高い満足度が得られている。また牧場利用農家からは規模拡大に伴い労力軽減や生産効率の向上に向け、冬期預託飼養拡大を望む要望も多く、可能な限りこれに応えていく。今後、施設や車両機械の老朽化により事業実施に支障がでることが懸念されるため、計画的にこれらを更新していく必要がある。



対応策	八ヶ岳牧場業務については、県有牛の改良や優良子牛の生産について、性選別精液や受精卵移植の活用など繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズにあったサービスを提供することで、更なる向上に努める。まきば公園業務については、新型コロナウイルス対策を徹底する中で、サービスの向上や園内の美化に努めるとともに、ホームページ等による情報発信を積極的に行い、利用者の拡大を図る。施設・車両機械等については、計画的な更新を県に要望していく。公益法人として、適切な法人運営とより一層の合理的経営を進めていく。
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	本県における大家畜の畜産振興を推進するため、県条例並びに当協会設置目的に従い、適切に受託事業等を実施しており、目的に適合している。 牧場内及び利用農家におけるヨーネ病発生により、令和2年度の受託頭数は目標を下回った。引き続き、牧場内の衛生対策を徹底し、預託の増頭に努める必要がある。また、まきば公園については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により来園者数が大幅に減少した。感染防止対策を講じながら独自のイベント企画等に取り組み、来園者の確保に引き続き取り組む必要がある。
計画性	経営計画・年次計画に基づいて、適切に管理運営が行われている。また、事業分析により業務改善に努めているが、今後も適切な管理運営を継続する必要がある。
組織運営の適正性	組織運営とリスク管理に必要な体制整備が行われ適切に運用されている。事業活動内容や財務状況もホームページにて公開されている。引き続き、業務上のリスクの共有・対応方法の定期的な検討や、法人事業・イベント等の積極的な情報発信等、適正な組織運営に努める必要がある。
財務状況	自給粗飼料の安定確保による飼料費を中心に事業費の削減を図ったため、正味財産増減額が8期連続してプラスとなっており、健全な財務状況を維持していることは高く評価出来る。
効率性	八ヶ岳牧場及び利用農家におけるヨーネ病発生による受託頭数の減少及び新型コロナウイルス感染拡大によるまきば公園の来園者数減少により、職員1名当たり利用人数が低下した。牧場内の衛生対策や新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、引き続き、未利用農家へのPR活動による預託頭数の確保や近隣観光施設等の地域と連携を図り、来園者数の確保に努める必要がある。
総合的評価	設立目的に沿った事業を実施しており、適切な法人運営が行われていることは評価出来る。今後もより一層の合理的経営に努め健全な経営を維持すること。 令和2年度は八ヶ岳牧場の受託頭数及びまきば公園の来園者数について目標達成が出来なかったことから、指定管理者としてさらなる利用者の増加に努めること。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A 得点率 82.6 % 警戒指標数 0	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	・八ヶ岳牧場及びまきば公園の指定管理業務が法人の主要な財源であり、県からの指定管理料及び施設利用料が収入全体の97%以上を占めている。 ・新型コロナウイルスの影響でまきば公園の来園者数が大幅に減少したこと、農家有家畜の延べ受託頭数及び生産物売却頭数についても、ヨーネ病が発生したことを受け、前年度比で減少したことにより、令和2年度は目標達成度が100%を切り、目的適合性の評点が下落した。 ・流動比率が低下し、財務状況の評点も低下しているが、これは年度末の退職手当が決算時点で未到来のため、一時的に流動資産に計上しているものであり、法人の経営に大きな影響を及ぼすものではないといえる。 ・今後も、農家有家畜受託事業の周知活動を積極的に行い、受託頭数の確保に努めるとともに、まきば公園について、広報への注力等により、利用者の増加を図る必要がある。	



【総合所見等に対する今後の対応方針】

・八ヶ岳牧場、まきば公園の指定管理者として、今後とも県出資法人の経営健全化プランに基づき、健全な法人運営並びにより一層の効率的な業務運営に努めていく。 ・八ヶ岳牧場については、甲州牛生産体制整備事業により新牛舎が完成し、牧場機能も強化されることから、新たな業務を通じて、牧場の利用頭数の増加を図る。また、県有牛の改良増産を更に進め、優良子牛の供給により甲州牛の増産に繋げ農家のニーズに応えていく。 ・まきば公園については、ホームページにより最新情報を提供するとともに、タッチパネル式デジタルサイネージの活用や近隣の観光施設と連携した情報発信や取り組みにより、公園を含めた八ヶ岳南麓地域全体の集客力アップに繋げていく。
--